

2021 年度 秋季特別企画展 開催概要

(公財) 日本習字教育財団 観峰館

1、展覧会名

秋季特別企画展「^{ぶんじん}文人^いの^か行き^{まち}交^{あうみしょうにん}う^{つむ}街～近江商人が紡いだネットワーク～」展

2、開催趣旨

近江商人ゆかりの東近江・近江八幡地域は、江戸時代以降、多くの文人が訪れ、商人の旧家には、貴重な書画作品が伝来しています。特に江戸後期には、「幕末の三筆」の一人である^{ぬき な すうおう}貫名菴翁を中心に、^{こばやし たくさい}小林卓斎、^{いわや いちろう}巖谷一六、^{の ぐち しょうひん}野口小蘋などの文人たちのネットワークが築かれていた^{こんせき}痕跡をたどることができます。

この背景には、文人たちを支える商人たちの活動があり、同地域の文人たちの交流は、彼らが紡いだものともいえます。また商人たちは、家業を通して故郷の寺院に様々な美術作品をもたらし、同地域には、京都などの近隣地域とは異なる文化が育ちました。

この展覧会では、地域の近江商人の末裔たちが大切に守り伝えてきた書画を通して、彼らが紡いだ文人たちの交流をたどります。同地域に伝わる知られざる文化財の数々を通して、この街の魅力を再発見してください！

3、主催

公益財団法人日本習字教育財団 観峰館

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町136

TEL 0748-48-4141 FAX 0748-48-5475

URL <https://kampokan.com/> ※右のQRコードにアクセスしてください。



4、協力・後援

協力；近江八幡市（近江八幡市市史編纂室）

後援；滋賀県、東近江市、京都新聞、中日新聞社、読売新聞大津支局、毎日新聞大津支局、NHK大津放送局

5、会期

2021年9月18日（土）～11月21日（日） 56日間 展示替有

前期；9月18日～10月17日 後期；10月19日～11月21日

休館日；月曜日（祝日の場合は、翌日）

6、入館料 （常設展示共通）

一般 1000円 高校生・学生 800円 中学生以下 無料

※近江八幡市立資料館との相互優待有り。

2021 年度 観峰館秋季特別企画展 概要

7、展覧会図録

装丁；A4、64頁（うち56頁は4×4色）

定価：1500円（税込）

※観峰館受付及び、通信販売（電話、mail）にて販売。

8、同時開催・イベント

本館4階「館蔵秦封泥～」

同 5階「始皇帝以前～古（いにしえ）を伝える書画文物」

書院展示室「アート作家・羅入（らじゅ） 現代水墨展」（9/18～9/26）

9、関連イベント（予定） ※新型コロナウイルスの拡大状況により中止する場合有り。

○土曜講座 13：00～14：00 各定員20名（要予約）

9/18 秋季特別展の見どころ① 貫名菰翁「いろは大字屏風」について

11/6 秋季特別展の見どころ② 「巖谷一六日記」と2種の印譜

○9/26 アンティークオルゴール鑑賞会 14：30～15：30 定員30名（要予約）

○10/10 学芸員によるギャラリートーク 14：00～15：00 定員20名（要予約）

○10/31 ギャラリートーク&ミニコンサート 13：30～15：00 定員30名（要予約）

演奏者；小山 清（滋賀新堀ギター音楽院 講師）

楽 器；クラシックギター

10、主な出品予定作品

烏丸光広「和歌詠草」（寛永6年・1629）永源寺所蔵 ※重要文化財

同 「遺偈」（寛永15年・1638）法雲院所蔵

貫名菰翁「行草書飲中八仙歌屏風」（江戸後期）観峰館所蔵

同 「いろは大字屏風」（安政4年・1857）観音正寺所蔵

同 「寿」（江戸末期）個人蔵

小林卓斎「行書二字「無息」」（明治10年・1877）近江八幡・江頭町公民館所蔵

巖谷一六「行書五言詩屏風」（明治15年・1882）個人蔵

『巖谷一六日記』（明治6年・8年・11年）水口歴史民俗資料館所蔵

「歙霞樓印存」（巖谷一六印譜）（明治45年・1912）個人蔵・水口歴史民俗資料館所蔵

野口小嶺 画 巖谷一六 賛「月琴桂花図」（文治2年・1862）個人蔵

野口小嶺「青緑山水図」（明治27年・1894）個人蔵

（※別紙リストを併せてご参照ください）

11、展覧会担当者

公益財団法人 日本習字教育財団 観峰館

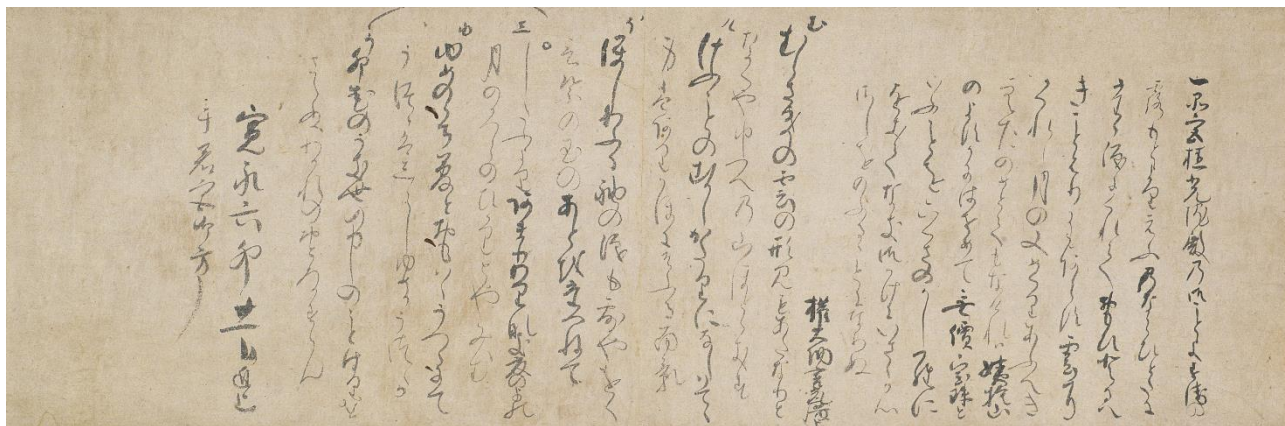
学芸員 寺前公基（てらまえ きみもと）

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町136 TEL0748-48-4141 FAX0748-48-5475

k-teramae@nihon-shuji.or.jp

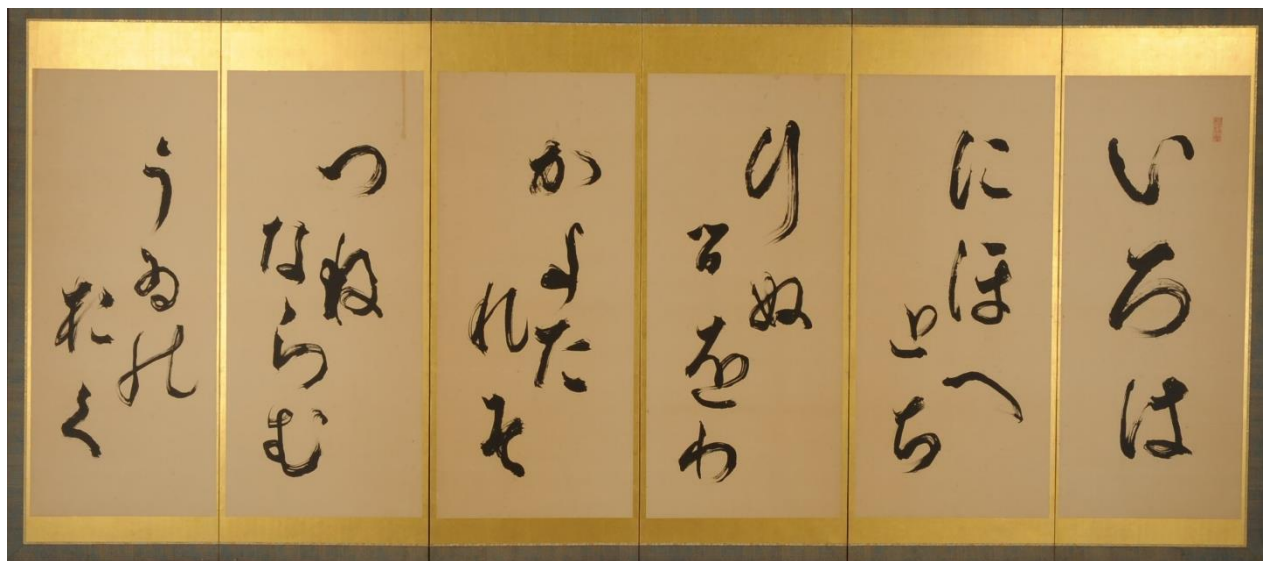
【主要出品作品】

①重要文化財（永源寺文書） 烏丸光広「無価宝珠詠草」 寛永6年（1629） 永源寺所蔵



寛永の三筆と並び称される、烏丸光広（1579～1638）の仮名の書。後水尾天皇の叔父・八条宮智仁（一品宮桂光院）を悼んで、「む」「け」「ほ」「う」「し」「ゆ」（「無価宝珠」）を頭に冠して六首の和歌を詠み、智仁の子・智忠親王に進上したものの。

②貫名菰翁「いろは大字屏風」（右隻） 安政4年（1857） 観音正寺所蔵



平成31年4月に観峰館で初公開された作品。いろは47字をダイナミックに書いた屏風。

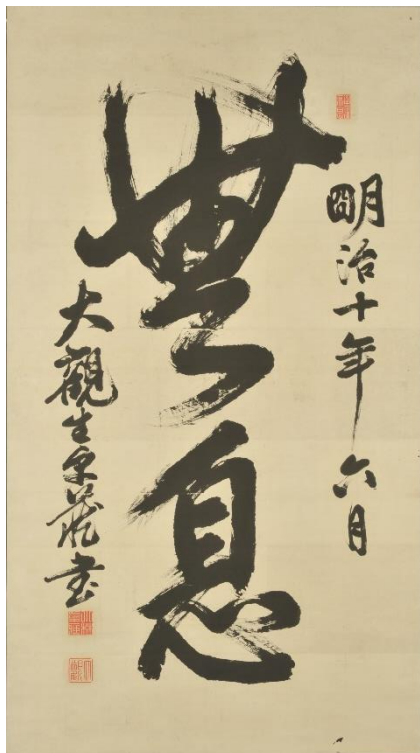
③貫名菰翁「寿」 江戸末期 個人蔵 （左）



貫名菰翁（1778～1863）は、幕末の三筆の一人として知られ、多くの文人と交流し、その私塾で日根対山などを輩出した。八幡にも逗留した時期があり、同地域の文人ネットワークの中心に位置する人物である。

この作品は、菰翁最晩年の書。近江商人の旧家に伝わるもので、菰翁の一文字の作品は、たいへん珍しい。

④小林卓斎「行書二字「無息」」 明治 10 年（1877） 江頭町公民館所蔵



小林卓斎（1831～1916）は、京都に生まれ、貫名菴翁の弟子の一人。幕末の戦禍を避けるため、近江八幡地域に逗留し、地域の文化振興に協力した。

この作品は、堂々とした大字の書軸。引首印に「至誠無息」とある。『中庸』より採られた言葉であり、明治 7 年（1874）に江頭村に開校した至誠学校に贈られたもの。



⑤巖谷一六/賛 野口小蘋/画「月琴桂花図」 文治 2 年（1862） 個人蔵

明治を代表する女流画家・野口小蘋（1847～1917）が、「玉山」と号していた、若年期の作品。「明治の三筆」の一人で、水口出身の書家・巖谷一六（1834～1905）が賛を添えている。これまで、二人の交流については知られてはいたが、その交流と交流時期を具体的に示した作品。『巖谷一六日記』には、二人の親密な交流がうかがえる。



⑥巖谷一六「「積善有余慶」扁額」 明治 15 年（1882）頃 個人蔵



「善を積めば、余慶有り」とあるこの書は、商家のために書かれたもので、善い行いをすれば、子孫の代まで幸福が訪れる、という意味である。

⑦野口小蘋「青緑山水図」 明治 27 年（1894） 個人蔵

近江商人の旧家である村井家に伝わる作品。蒲生群に本家のある野口家から、村井家へ嫁いだ女性へ、小蘋が結婚のお祝いに送ったもの。



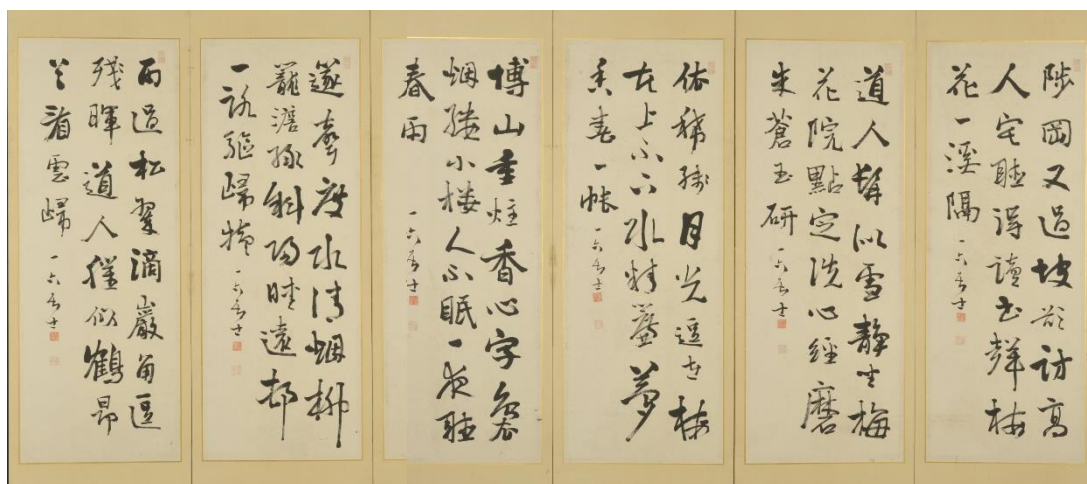
⑧野口謙蔵「緑楓図」 昭和 8 年（1933） 個人蔵

2021 年、生誕 120 年を迎える、地元出身の作家・野口謙蔵（1901～1944）の作品。洋画家として知られるが、この作品は、爽やかな水彩画である。

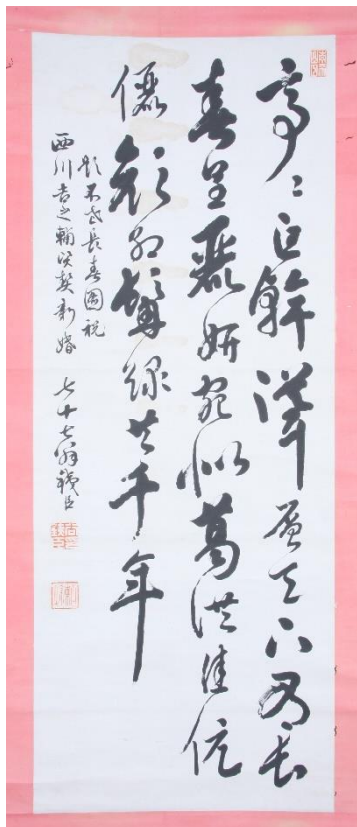


⑨巖谷一六「行書五言詩屏風」明治 15 年（1882） 個人蔵

滋賀県水口出身の政治家・書家。明治の三筆の一人で、東京在住後も、地元の名士として、数多くの作品を故郷にのこした。この作品は、明治 15 年に、近江商人の辻家に逗留の際に、同じく近江商人の北村氏に頼まれて書いたもの。付属の道具帳によると、印を押すことを他の人に頼んだため、引首印が上下逆に押されている。（左下）「磊磊落落（らいらいらくらく。意味は細かいことにこだわらない。）」印上下逆に押されている。



⑩谷 鉄臣「行書祝詞軸」 明治 31 年（1898） 個人蔵



谷鉄臣（1822～1905）は、彦根出身の幕末から明治時代の武士、官吏。近江商人の西川吉之輔の新婚の祝に贈ったもの。祝言らしく、筆の運びが清々しい。末尾の「千年」に、夫婦が永く連添っていけるようにという願いが込められる。

⑪隠元隆琦／賛 逸然性融／画
「達磨図」 明暦 3 年（1657）
観峰館所蔵

逸然性融（1601～68）は、中国・浙江省杭州の人。賛は隠元隆琦の筆によるもので、逸然是、当時中国の黄檗山にあった隠元を日本に招聘したことで知られる。



⑫河村若芝「釈迦牟尼仏像」 元禄 14 年（1701） 松雲寺所蔵

河村若芝（1638～1707）は、肥前佐賀・竜造寺家の出身。画を逸然性融に学び、師の画風を受け継ぎ発展させた長崎派の画家。また剣鐔の造型に長け、若芝鐔工派の開祖としても著名である。

本作の裏書は、元禄 14 年（1701）、松雲寺開山・南嶺慧詢の手になる。それに拠ると、南嶺慧詢と懇意にあった八幡出身の近江商人・井狩浄教（宗訓）が、白絹五彩を購入し河村若芝に描かせ、十八羅漢と釈迦丈仏像の十九幅を松雲寺に寄進し、その画は、鎌倉建長寺の図を模写したものであるという。



以上